

株式会社寿精密

精密部品の金型から量産プレス加工、組立までを一貫対応 生産の効率化への取組み

事業内容

金型部品の製造からスタート 長年の実績と技術力から取引拡大

半導体部品の金型製造を目的に創業し、2016年3月に創業30周年を迎える。金型部品製造からスタートし、プレス加工品も手掛けるようになり、徐々に業容を拡大してきた。拠点は同社事業領域全般を手掛ける本社工場、金型部品製造を手掛ける鹿児島工場に加え、中国およびタイにも生産拠点を有し東アジアをカバーしている。

主力製品は、携帯電話用精密プレス加工品とリチウムイオン電池用中芯であり、数億個単位での受注となっている。現在では、精密加工品売上が全体の70~80%を占めている。金型製造では、SDメモリーカード用コンタクト順送

金型などの製造に加えて、半導体用・電池用・精密カッターなどの金型用消耗工具の取扱いもある。

大手上場企業(数十社)と直接取引を行っており、得意先からの信頼も厚い。試作から量産、組立までを一貫して行い、柔軟な対応ができることが特に評価されている。技術面においても設備機器が充実しているため、1000分の1mm程の精密部品製造に対応可能であり、品質水準も高いことから追加受注を獲得し既存得意先との取引は拡大傾向にある。

補助事業

精密部品需要の拡大が背景 洗浄設備の拡充による競争力強化

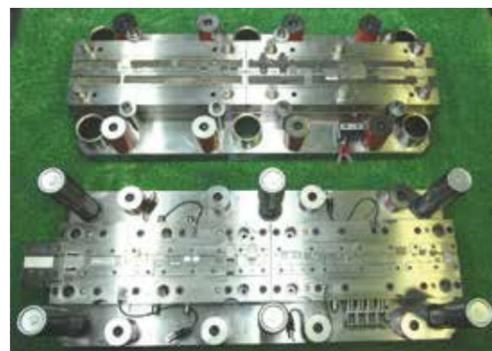
数年前より、直接販売ではないものの、電気自動車の開発・製造・販売を手掛ける自動車会社へリチウムイオン電池用の精密部品を納入している。さらに、スマートフォン向けの半導体部品の一部に採用されたこともあり、受注が増加した。

それらの受注増加を背景に、工場の生産能力および生産効率を向上させる必要が出てきた。またスマートフォンの国内利用率も右肩上がり、さらなる受注増加が見込める状況にあった。

そこで今回の補助事業では、洗浄設備を拡充することにより生産効率を向上させ、さらなる短納期に取り組んだ。今まで洗浄工程は自動化されておらずマンパワーを必要としていたため、全工程の中でも時間が掛かっていた。自動洗浄機器の導入により、洗浄工程を短縮し、スムーズに検査、

梱包・出荷までの流れを作ることで納期短縮に挑んだ。

洗浄機器導入にあたっては、工場内のスペースがやや狭かったが工場内のレイアウト変更を行うことにより対応したようだ。



▲精密金属プレス用金型

株式会社 寿精密

代表取締役社長 米倉 勝治
伊都郡かつらぎ町東洪田651-23
TEL:0736-22-4141
(資本金)223,450千円 (従業員)136人(海外子会社除く)
URL:http://www.koto-buki.co.jp/

成果

生産能力の向上に寄与 洗浄工程スタッフの負担軽減

洗浄設備(純水全自動式超音波洗浄機)の導入によって洗浄時の製品の投入数が48万個(旧型)から96万個(新型)となり、生産能力が2倍に向上した。設備を導入する前は洗浄工程に時間が掛かることがネックとなっていたが、製品を次の工程にスムーズに流すことが可能となり、時間短縮の効果もあった。前期および今期の受注増加への対応にも同設備が貢献し、売上の増加にも寄与するなど大きな成果が得られた。

さらに、同設備の導入により従業員の人的負荷を軽減することにも成功した。自動運転であることから無人稼働時間が20分から60分に延長されたほか、洗浄用バケットの入替えに伴う重労働がなくなる効果もあった。今まで洗浄工程に投じていた人的労力を他工程に分散させることができ、結果的に各工程の生産性向上にもつなげることがで

きた。

ただ、受注動向が予測しきれい نبودったこともあり、洗浄機に収まらない製品が出てきてしまった。洗浄できる製品形状にも制限(限界)があるようで、この点は今後の課題とし改善案を考えていく予定である。



▲補助事業による設備拡充
純水全自動式超音波洗浄機

今後の展開

医療・防災分野にも挑戦 用地買収、増築により生産力アップを狙う

国内向けに関しては、既存の精密加工部品の技術を活かすかたちで医療・防災分野といった新たな市場に切り込んでいきたいと考えている。同市場への参入は後発組となるが、小口受注の獲得をきっかけに取引を拡大していく予定だ。また、金属成形品だけでなく、樹脂成形品の製品力を高め、要望に応じていく。

海外向けに関しては、2015年に入ってから中国で車載用エアコン向け精密加工部品のまとまった受注を獲得。試作から量産、組立まで一貫して対応できる点が評価された。今後の受注拡大に向けて現地工場の従業員も増員し、

業容拡大を狙う。

また、国内工場、海外工場ともに手狭になりつつあるため、国内では本社工場の増築を行い、海外で用地買収も進めていく意向にある。生産能力の限界を理由に受注を断念するような機会損失はなるべく避けたいところであり、生産能力向上は引き続き同社の課題となるだろう。

生産力を高めながら毎年業容を拡大している点を見張るものがあり、得意先の高い要望に応えつつ品質レベルを向上させ続ける同社の動向からは目が離せない。



▲精密金属プレス部品



▲樹脂成形品等